

2016年 4月 28日

2015年度採択 研究の国際化推進プログラム 研究成果報告書

採択者 (研究代表者)	所属機関・職名： 経営学部・准教授 氏名：吉田 満梨
研究課題	消費経験が社会および自己に対して及ぼす影響の比較文化研究

I. 国際的研究成果発信の目的・意義の概要

今次の国際的研究成果発信の目的・意義について、概要を記入してください。

今年度採択をいただいた研究の国際化推進プログラムでは、研究代表者及び2名の院生による研究成果を、国際学会で報告・発信を行うこと、研究に対するフィードバックと、近い研究関心を持つ研究者との今後の共同研究に繋がりをうような社会的ネットワークを得ることを目的としていた。

中心となる吉田の研究は、2014年度の学外研究制度で滞在をしていた University of Otago で着手した比較文化研究を発端としたものであり、消費経験論の研究で注目されてきた、「拡張的自己 (extended self)」(Belk 1988)の研究を、欧米とは異なる自己概念を持つ東アジア (Markus and Kitayama 1991) の文脈において検討するものであり、2名の院生 (小林・牧野) の研究は、そうした消費文化論の研究系譜を理論的に検討し、さらに新製品の成功というマーケティングにとって重要な成果変数と接続することを試みるものである。いずれも、従来北米を中心として展開されてきた消費者研究、マーケティング研究に対し、欧米とは異なるアジアからの研究発信・比較文化研究という点で、大きな意義があったと考えている。

また今回の国際的研究成果の発信は、2名の院生にとっては初めての国際学会での発表の機会であり、今後自ら英語での研究発表を積極的に行っていく上での足がかりとなることが期待された。大学院生にとって、重要な学びの経験となったという意味でも意義が大きいと考えている。

II. 国際的研究成果発信の成果と今後の展開計画の概要

今次の国際的研究成果発信で得られた成果と今後の展開計画について、概要を記入してください。

当初の研究計画では、本研究の成果として、2015年10月30日～11月1日に早稲田大学にて開催される国際カンファレンス 2015 International Conference of Asian Marketing Associations (ICAMA)での研究報告 (吉田・牧野・小林がそれぞれ単独報告) のみを想定していた。

ただし実際には、追加的に、2016年11月14～15日に韓国・Yonsei University で開催された 2015 Korean Scholars of Marketing Science (KSMS) International Conference in Seoul (吉田・牧野がそれぞれ単独報告)、2016年3月14日～15日に名古屋大学で開催された ICBEIT 2016 Japan International Conference on Business, Economics and Information Technology (吉田・牧野・小林がそれぞれ単独報告) での研究報告を行うことができた。本プログラムの助成のおかげで、極めて積極的な国際的研究成果発信を実現できたと考えている。

ICAMA では、Keynote Speaker として招聘されていた、本研究の中心的な研究テーマである消費経験論の第一人者であり、「拡張的自己 (extended self)」概念の開発者でもある、Russell Belk 教授 (York University) と、本研究について議論する貴重な機会を得ることができ、またオーディエンスの先生方から今後の研究の発展にとって重要な指摘もいただいた。韓国で開催された KSMS International Conference では、「Product Rejuvenation by Co-Creating Value with Customers: Case Studies of Declining Industries in Japan」という論題で報告した吉田の研究報告が KSMS 2015 Best Conference Paper Award を受賞した。さらに当カンファレンスで得られた研究者とのネットワークは、今年度アクセプトされた 2016 GMS in Hong Kong での研究発表へと繋がっている。

院生にとっての自信と実績にも繋がったため、今後は、それぞれの研究を発展させつつ、海外ジャーナルへの投稿を行うことをさらなる展開として積極的に取り組んでいきたい。